



DJI レポート No.107+108 20161015

11月21日 イベント開催ご案内

UNHCR セルジオ・V・デ・メロ氏資料 整理と研究

～国際機関アーカイブ整理プロジェクト報告会～

海外アーカイブ・ボランティアの会
会長 小川千代子

秋たけなわの候、皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
さて、海外アーカイブボランティアの会は2015年に引き続き、2016年度もまた株式会社カネカの支援を得て、UNHCR Fond15/1 セルジオ・ヴィエラ・デ・メロ氏資料の整理と研究の作業を進め、完了しました。
つきましては下記により成果報告会を開催いたしますので、ご案内申し上げます。

記

日時 2016年11月21日(月)
時間 14:00～16:00
場所 (株)カネカ 東京本社 会議室 〒107-6028 東京都港区赤坂1-12-32(アーク森ビル)
<http://www.kaneka.co.jp/corporate/map/tokyo.html>

プログラム

1. 大西 愛(大阪大学出版会)：本プロジェクトの経過と概要
 2. 小川千代子(国際資料研究所)：国際機関におけるアーカイブの現状(国連、UNHCR、WHO等を事例として)
 3. 金山正子(元興寺文化財研究所)：UNHCR Fond15/1 資料整理作業の実際
 4. 松村光希子(学習院大学大学院)：国際機関と日本の個人文書を比較する
 5. 質疑応答
- 司会・進行 元 ナミ(京都大学大学文書館)

- ★ご参加申込、お問い合わせはメールで。 kaigaiarchiv@gmail.com
★準備の都合上、ご参加は先着40名様、11月15日締切とさせていただきます。
★お申込みは上記メールアドレス宛、メール件名欄に「11月21日報告会参加希望」とご記入の上、文面にはお名前、ご所属をお書きください。
☆お申し込み時に頂いた情報は、本報告会の運営のためだけに用います。 以上

おもな内容

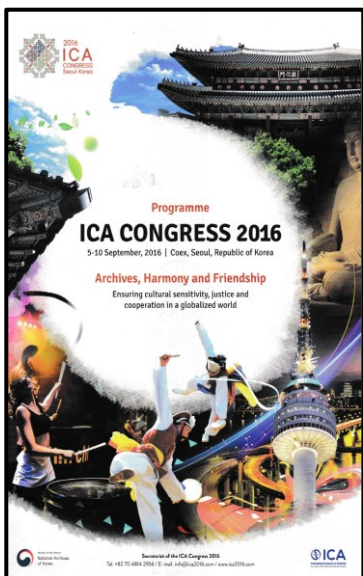
DJI レポート No.107+108 20161015

開催案内国際機関アーカイブ整理プロジェクト報告会……………1
視点 ICA ソウル大会……………2
IOC アーカイブの存在と役割……………3

資料集 世界アーカイブ宣言……………4
文献紹介/消息・訃報/あしあと/活動……………5,6
巻末随想 発行遅延の言い訳、ほか……………7

21世紀の潮流にふれる —第18回ICAソウル大会参加記—

小川 千代子



大会プログラム冊子(英語版表紙)

2016年9月7-9日の3日間、ソウルで開催された第18回ICA大会¹に参加した。ICA大会は4年に一度、オリンピックの年に開催される。今回は総参加者数が2000人を超え、日本からの参加者66名と、大規模な国際大会であった。大会テーマには、「アーカイブズ、調和、友情：グローバル社会における文化的感受性、正義、連携の確保」が掲げ

られた²。併設の展示場には、企業ブースだけでなく、韓国政府各省庁や地方政府による出展が多くみられた。このあたりからは、大会を招致した韓国国家記録院の意気込みが見えた。

事前の広報

日本の国立公文書館のサイトでも、5月ごろから大会への参加者を募る情報が掲示されていた。また、大会プログラムの紹介の資料には、発表が下記9項目に色分けで示されていた³。

1. デジタル時代のレコードキーピング
2. 協力
3. 正義、権利擁護、和解における記録及びアーカイブズの利用
4. グローバルなアーカイブズ界における調和と友情
5. アーカイブズ文化及び社会における多様性と調和
6. 韓国のアーカイブズ及び記録管理
7. 新任専門職
8. 2012年以降のICAネットワークの称賛すべき成果
9. 国立公文書館フォーラム

大会会場 COEX 国際会議場、2000人超の参加者、

¹ ICAは英語名 International Council on Archives の省略形で、国立公文書館の場合、「国際公文書館会議」、日本アーカイブズ学会では「国際アーカイブズ評議会」と訳出している。かつて散見された「国際文書館評議会」は最近あまり見かけない。なお、中国ではICAを漢字で「国際档案理事会」としている。

² 国立公文書館ホーム>お知らせ>ICA大会のご案内 <http://www.archives.go.jp/news/20151214120256.html> (2016-10-06 確認)

³ 国立公文書館ホーム>お知らせ>ICA大会のご案内>大会プログラムはこちら http://www.archives.go.jp/news/pdf/151214_04.pdf (2016-10-06 確認)

200件余の発表

筆者がソウルの大会会場である COEX 国際会議場に到着したのは7日夕方5時過ぎだった。COEXの建物規模の大きさに目を見張る。到着したときには講堂でICA総会が行われていた。そこで幾人もの旧知の各国の仲間の姿をみとめ、この日はそのまま宿舎に戻った。

2日目と3日目はセッションを「はしご」した。大会資料として配布された大会プログラム(写真)に掲げられた数ある発表の中から、日本の発表者のセッション⁴やテーマに関心をひかれたものを選び、自分専用に9月8日9日の二日間の「時間割」を作成した。(下表)

日程	【開始時間】発表者名；発表タイトル(分類番号)
9月8日	<p>【9:15】 Dr. Sherry Sweeny; Righting Past wrongs: Using Records to Promote Healing and Reconciliation in Brazil and Canada</p> <p>【11:45】 Hitoshi Fukui; Records Management in the Digital Age</p> <p>【15:00】 Boyong Kim; Museum, Library and Archives Partnerships: The Shibusawa Eiichi Memorial Foundation as a Case Study for Building Collaboration</p> <p>【17:00】 Yo Hashimoto and Nami Won; Processing a Wealth of Digitized Objects with Limited Resources: Steps for Success in US-Japan Collaboration Project</p>
9月9日	<p>【9:50】 Arika Kaneko; The Future of Archives on the Fukushima Nuclear Accident</p> <p>【10:50】 Saubhagya Pradhananga; The Collection of National Archives and Using its archival documents in justice, advocacy and reconciliation in Nepal</p> <p>【11:45】 Trudy Huskamp Peterson; Safe Heaven for archives at risk</p> <p>【15:00】 Closing Ceremony</p>

このプログラムには、各国別発表件数、ランチやコーヒーブレイク、ディナーの場所と時間などの掲載があり便利した。8日のランチタイム、ディナーでは、全史料協会長及び事務局担当者、副会長らと出会い記念撮影。9日にはセッション会場でも国立公文書館関係者、日本アーカイブズ学会のメンバー諸兄諸姉にお目にかかった。ICA大会では、日本にいてはなかなか会えない方々と会い気軽に話せるので、最近の動向がわかり楽しい。

⁴ 日本の発表は12件。国立公文書館派遣講師の発表資料は、国立公文書館ホーム>お知らせ>第18回ICA大会について>当館派遣講師の発表資料についてはこちら>『第18回ICAソウル大会 国立公文書館派遣講師 発表資料集』 http://www.archives.go.jp/news/2016090509_01.html (2016-10-08 確認)

また、9月8日には記録管理学会会員の橋本陽、元ナミ両氏の発表、9月9日には国立公文書館の福井仁氏による日本の公文書管理法についての発表、東京大学大学文書館の金子彩里香氏による福島原発事故とアーカイブに関する発表などを聞いた。9月7日には同じく当学会員の秋山淳子氏ら日本人5名による発表、Japan-Australia Bilateral Cooperation in Archival Processing for the Wartime Seized Company Recordsがあったが、聞きそびれた。

むすび 21世紀のアーカイブ潮流

以下、大会の全体的な印象を記そう。会場には学生とも見える若者の姿が多く、発表者にも若返りが感じられた。前掲9項目の発表テーマからも見えるように、近年記録物が社会の調和に果たす役割に関心が集まっている。他方、デジタル時代といわれる今日の技術進展環境下で、記録の保存に加え、その公開利用提供を巡る技術への関心は高まるばかりだ。そうした21世紀的潮流は、具

【チヨコの視点 その2】

IOC アーカイブの存在とその役割

クリスティーナ・ピアンキ(スイス、ICA/SPA)

1914年クーベルタン男爵は永世中立国スイスのローザンヌにIOC事務所を設立しました。IOCは今もその地に置かれています。ローザンヌのIOC本部はすべての始まりであり、すべてはそこに記録として残されなければならないのです。オリンピック博物館もここに置かれています。

IOCアーキビストの仕事

IOCアーキビストは、ハイブリッド・ファイリングを担当します。という聞こえが良いかもしれませんが、今なお記録は紙と電子が入り混じっています。IOCのアーキビストは通常、オリンピック開催中に競技を見に行くことはありません。というのも、アーキビストはホットラインを引いて昼夜を問わずIOC会長や幹部職員からの質問に対応することになっているからです。競技開催地に、オリンピック期間中に必要になるかもしれない書類がいっぱいに詰まった箱をいくつも送るということはせずに(私は今でも2000年シドニーオリンピックのことを思い出します)、ERSシステムのおかげで今ではたいいの記録にホテルの部屋から電子的にアクセスできるようになっています。このために、アーキビストはファイリングに手を抜くことなく、またきちんとした文書管理規則に通暁していることが求められます。アーキビストは、かつてはオリンピック開催に先立ち開催地に赴き、現地組織委員会とともに、あらかじめ重要資料のサイクルの仕組みを作りこみ、競技終了後にはこれを回収して回ります。

体的には、世界規模で20世紀的「アーカイブ(ズ)」観を脱却し、動詞「記録を保存する(こと)」⇨アーカイブ(アーカイビング)、及び名詞「保存記録」⇨アーカイブ(ズ)を個別に意識する傾向を明確にした。その結果だろうか、21世紀に入ってから社会的技術的環境の変化の中で、アーカイブの意味が、世界規模でジワリと変化しているようだ。ICA人権ワーキング・グループのリーダー、Trudy H. PetersonはSafe Heaven for archives at risk(亡失リスクあるアーカイブ資料とその保全、国立公文書館プログラムには「危機に瀕したアーカイブズの避難場所」と訳出)のテーマで人権の観点から世界規模でアーカイブ資料を守る試みを紹介した。この発表は、筆者が今回触れた発表の中でも、特に21世紀の新たなアーカイブ潮流を強く感じさせられたものだった。

閉会式では、「2020年、アブダビで会いましょう！」というスローガンのもとで、華やかな現地紹介ビデオが上映された。参加者は再会を誓いあい、第18回ICA大会は閉幕した。

オリンピック・アーカイブの存在意義

オリンピック開催は開催地の様相を変化させます。新しい競技場、新しいプールや飛込み台、新しい選手村が作られます。あらゆる建物や構造物にまつわる記録や設計図は、法令上及び保安上、開催地で保存し続ける必要がありますし、IOC側にはいずれにせよそうした記録を保存するスペースはありません。通常はオリンピックが終了したのち、財団とか博物館とか、当該国の国立公文書館などが、オリンピック・アーカイブのための収蔵スペースとかオリンピック・アーカイブそのものを設置します。今では、世界規模でオリンピック研究者の資料探索を提供する、各地のオリンピック・アーカイブのネットワークが出来上がりました。(カルガリー、バルセロナなど)。たとえば1948年ロンドンオリンピックのアーカイブ資料のように、失われてしまったものもあります。ロンドンの場合は水害で失われました。1968年メキシコオリンピックの場合は、なんとメキシコ国立公文書館から再発見されました！

【メモ】

本稿は著者クリスティーナ・ピアンキが今年9月22日学習院大学「記録保存と現代」の授業で行った講演の抄録。ピアンキはソウルICA大会に参加し、その後来日、京都と東京に滞在した。9月22日は、小川らとともに東京浅草に足を延ばした後、学習院で講演した。カナダ・アルバータ州アーキビスト、クロード・ロベルトも同じときカナダにおける個人文書の評価選別について講演を行った。原文英語、校閲ザビーネ・クリスティIOCアーキビスト、翻訳は小川千代子。

世界アーカイブ宣言

アーカイブは、意思決定、行動、記憶を記録する。アーカイブは世代から世代へ引き継がれる唯一無二にしてかけがえのない文化遺産である。アーカイブはその作成段階からそれ自身の価値と意味を保存するために管理される。アーカイブは説明責任の義務及び透明性ある行政経営活動の支えとなる、権威ある情報源である。アーカイブは個人及び共同体の記憶を保護し、それに寄与することによって、社会の発展に重要な役割を担う。アーカイブへの自由なアクセスは、人間社会の知識を豊かにし、民主主義を促進し、市民の権利をまもり、生活の質を向上させる。

この趣旨のため、私たちは以下のことを認識する

- ・行政的、文化的、知的な活動の信頼できる根拠として、さらに社会の発展を表すものとして、アーカイブがもつ独自の特質。
- ・事業効率、説明責任、透明性の支援のため、市民の権利の保護のため、個人及び集合的記憶の確立のため、過去の理解のため、さらに将来の行動の方向付けのために現在を記録するために、アーカイブは必要不可欠なもの。
- ・人間の活動のあらゆる分野を記録することで生まれるアーカイブの多様性。
- ・紙媒体、電子媒体、視聴覚媒体およびその他のタイプを含む、アーカイブを作成するフォーマットの多様性。
- ・記録の作成の支援、選別、維持管理、利用に供するようにすることにより、基礎教育及び継続的教育を受けた専門家として、社会で果たすべきアーキビストの役割。
- ・アーカイブ管理におけるすべての関係者、すなわち市民、行政担当者、政策決定者、公的私的なアーカイブの所有者または所蔵者、アーキビスト、その他情報専門家が担う共同責任。

私たちは、それゆえ、以下のことを目的に、共に活動することを約束する。

- ・適切な国家的アーカイブ政策と法令を採択し、施行すること。
- ・公私にかかわらず、業務遂行過程でアーカイブを作成、利用するすべての機関において、アーカイブ管理の意義を高く評価し、遂行すること。
- ・アーカイブ管理の適切な支援のため、教育を受けた専門家の雇用を含め必要とされる資源を割り当てること。
- ・アーカイブを真正性、信頼性、完全性、有用性を保証する方法で、管理、保存すること。
- ・アーカイブを関連法令及び個人、作成者、所有者、利用者の権利を尊重しながら、何人も利用できるようにすること。
- ・アーカイブは責任ある市民の育成に貢献するために用いられること。

2010年9月、ICA 円卓会議オスロ大会にて採択

【解説】世界アーカイブ宣言

2010年9月17日、「世界アーカイブ宣言」(英語表記: Universal Declaration on Archives、UDA)が、ICA 円卓会議オスロ大会で満場一致で採択された。前年のマルタ大会で、細かい文言などをめぐり基本的方針のみ承認された宣言が正式に承認されたのである。この宣言は、現在、公式にICAの唱える方針の中心的な柱の一つと位置づけられた。

宣言案は、全史料協も所属するICA 専門家団体部会(ICA/SPA)によって起草された。これは、ICA 円卓会議ケベック大会(2007年11月)で、ケベックアーキビスト協会によって取りまとめられた「ケベックアーカイブ宣言」に触発され、同宣言をモデルにしている。

なお、宣言では、アーカイブの特質と、記録が必要とされる限り続くアクセスを提供するための管理要件が、簡潔に提示されている。また、アーカイブとその専門家を支援するために、広く一般に向けてアーカイブを周知し、広報宣伝するための基本文書として考えられている。

参考：<http://www.ica.org/6573/reference-documents/universal-declaration-on-archives.html>

注) ICA(国際文書館評議会)は、世界190カ国の、国の文書資料保存機関や専門家団体等が加盟する国際NGOであり、ユネスコの諮問機関の資格をもつ。本部はユネスコ本部と同じくパリにある。4年に1度オリンピックの年に、世界の文書資料保存関係者が一堂に会する大規模な大会を開き、最高議決機関である総会が同時におこなわれる。それ以外の年には毎年、加盟各国の国立公文書館長や専門家団体の代表者による国際文書館評議会円卓会議(CITRA)が各国持ち回りで開催され、専門的な討論と共に、実質的な年次運営会合をおこなっている。

ICAの会員は、A: 国を代表する文書館、B: 全国的な文書館専門家団体、C: 文書館及文書館関係機関などから構成されている。総会の議決権は、A会員とB会員が1票ずつ持ち、全史料協はB会員として登録されている。

全史料協の所属するSPA(専門家団体部会 Section For Professional Associations)は1976年、会員の関心、要請に応じて設けられた最初の専門部会の一つである。同年に発足したのはSIO(国際機関アーカイブ部会)とSPAの二つの専門部会であった。

●やぶにらみ文献紹介●◆▼●◆●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

●レコード・マネジメント・ハンドブック—記録管理・アーカイブズ管理のための

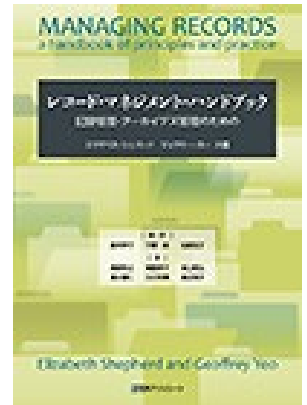
記録管理学体系化に悪戦苦闘中の筆者には実にありがたい先行研究専門書が出版された。しかも光栄にも訳者のお二人の連名で本書をいただいた。400頁の大著で手にするとずっしりと重い。

本書は記録（文書）管理にかかわる実務者一般を対象に「ウチ」でも他所でも共通する具体的実務を詳述している。この点は刺激的だ。思い返せばアーカイブにかかわって40年、文書館の経営や資料管理をテーマとした研究会や学会で様々な発表を聞いたが「ウチの場合はこのようにやっています」という事例発表ばかりだった。本書が示す実務上の共通点の洗い出しや作業の一般化という視点は、国内では出会った記憶がない。

惜しむらくは、本文にカタカナが多いことだ。中でも「レコード」の用語は気になった。文中「日

本語の記録とは異なるので、レコードとした」という趣旨の解説を見て、納得はした。だが、本書が「企業、各種団体の文書管理・アーカイブズ担当者必携」（出版社のHP）ならばなおのこと、文中の「レコード」は「記録」とか「文書」とすることで国内的な浸透と一般化を目指してほしかった。

エリザベス・シェパード ジェフリー・ヨー〔共著〕 森本祥子 平野泉 松崎裕子〔編訳〕 清原和之 齋藤柳子 坂口貴弘 清水善仁 白川栄美 渡辺悦子〔訳〕 A5・400p 日外アソシエーツ 2016.6 刊 ISBN:978-4-8169-2611-2 (ち)



▼市民会議ニュース 2016.9.26No.166

「市民会議ニュース」というミニコミ、筆者は公文書管理法成立前夜にたいへんお世話になった、その発行元は戦争被害調査会法を実現する市民会議（以下「市民会議」）という。注目はその最新号巻頭「ユネスコ「世界の記憶」遺産『慰安婦』の声」をノミネート／「慰安婦」被害記録を世界遺産に／～8か国・地域から2744件を申請～」の記事。去る9月9日に都内で開催された集会の基調講演で「これまでは戦争の勝者が歴史を書いてきたが、これからは戦争の被害者が歴史を書くことになる」という発言があったこと、大英帝国戦争博物館は共同申請に加わったほか、韓国、中国、オランダ、英国、オーストラリア、米国の国立公文書館と戦争記念館などが登録申請を了解していることなどが記されている。

市民会議は戦争被害として従軍慰安婦の問題に取り組んでいる団体だ。筆者はこの団体の活動から「真実和解運動」について学んだ。去年は、

世界遺産登録となった中国の南京大虐殺記録めぐり、日本政府がユネスコに苦情を申し入れたことにつき意見を求められ、ここに拙文を掲載していただいた（市民会議ニュース2015.11.26 No.163及び本誌No.103+104, 20160120既報）。「市民会議ニュース」今号には、世界8か国・地域から2744件の「慰安婦」被害記録を世界遺産に登録と申請が出されたこと、この申請に関係各国の公文書館の了承が得られたことが記されている。また、筆者が参加した9月のソウルICA大会では真実和解とアーカイブのかかわりが大会テーマに取り上げられ、加えて10月初旬の私的ソウル観光で何度も通りかかった曹溪寺が慰安婦運動拠点の一つとしてこの記事の中に見えたことなど、筆者は今号とは幾重にも重なる深い「ご縁」を見出した。来年10月の世界遺産審査結果が待たれる。(ち)

市民会議ニュース URL:<http://www.geocities.jp/siminkjp/> (2016-10-10 確認)

◇◆◇アーキビストの消息(順不同)◇◆◇【凡例：●個人■機関】

訃報

●加藤多恵子氏 7月20日、虚血性脳症のため逝去。享年72。記録管理学会では役員選任委員を長らく担当された。著書『シンガポールの図書館政策：情報先進国をめざして』（ラマチャンドラン、ラス；ポール、ジョンソン；大村勝敏、加藤多恵子、木原一雄、高木和子共著、日本図書館協会、2009、155p）、エッセイ「この本！おすすめします 図書館に関連する最新の技術を考えるにあたって」（『情報管理』2009.7）ほか著作多数。



事務所移転 8月22日から

■日外アソシエーツ株式会社

140-0013 東京都品川区南大井6丁目16-16 鈴木ビル大森アネックス 電話・ファクス番号は変わりません

交通: JR 京浜東北線大森駅北口徒歩3分 / 京浜急行線大森海岸駅徒歩10分

□訂正

No.106 掲載の埼玉県立文書館長のお名前に間違いがありました。正しくは、杉山正司氏です。お詫びして訂正します。

☆本コーナーへの皆様のご協力に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

●千代子のあしあと●◆▼●◆ ●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

▼DJIレポート No.107+108 2016年10月15日 up、7p. PDF 国際資料研究所 www.djichiyoko.com

■新聞記事掲載 「アーカイブの日曜日」 紹介記事①7月28日朝日新聞北海道内版情報クリップ、②7月29日北海道新聞夕刊

▼アーカイブ・記録管理・ファイリング (『学報第58号』東京雑学大学講義要旨 第1032回(4

月7日) 特定非営利活動法人東京雑学大学発行) ▼アーカイブ基礎資料集(教員著書紹介、『図書館だより』No.92, 2016.10、藤女子大学図書館)

■イベント実施 『アーカイブの日曜日』8月7日、30名参加。場所は藤女子大学。

※このイベントは、新聞に予告記事が掲載された。イベントの報告書は近日中に、DJI ウェブサイトに掲載予定。

「アーカイブの日曜日」予告記事切り抜き

北海道新聞 7月29日付夕刊 11面

朝日新聞 7月28日付 35面

◆藤女子大で7日、女性史研究会 藤女子大北16条キャンパス(札幌市北区北16西2)で8月7日午前10時半から、女性史の研究会「アーカイブの日曜日」が開かれる。

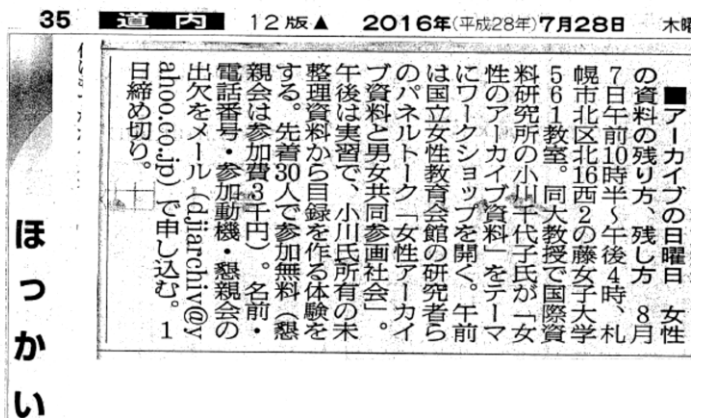
同大の小川千代子教授(文書館学)が企画。国立女性教育会館(埼玉)の研究員らがパネルトークを行い、女性の社会活動の記録

◆藤女子大で7日、女性史研究会 藤女子大北16条キャンパス(札幌市北区北16西2)で8月7日午前10時半から、女性史の研究会「アーカイブの日曜日」が開かれる。

同大の小川千代子教授(文書館学)が企画。国立女性教育会館(埼玉)の研究員らがパネルトークを行い、女性の社会活動の記録

◆藤女子大で7日、女性史研究会 藤女子大北16条キャンパス(札幌市北区北16西2)で8月7日午前10時半から、女性史の研究会「アーカイブの日曜日」が開かれる。

同大の小川千代子教授(文書館学)が企画。国立女性教育会館(埼玉)の研究員らがパネルトークを行い、女性の社会活動の記録



DJI国際資料研究所の主な活動 2016年5月21日～2016年10月10日

- <執筆> →千代子のあしあと
- <講演>
- 8月7日 Fuji-DJI ワークショップ アーカイブの日曜日 藤女子大学、札幌
- <出講>
- 5月21,28日 6月4,11,18,25日、7月2,9,16,23日 藤女子大学図書館情報学課程「図書館概論」「図書館情報資源概論」 8月6,8,9,10日 集中講義「アーカイブズ論」 札幌
- 5月26日、6月2,9,16,23,30日、7月7,10,14日 中央大学「記録管理論」、東京
- 9月17,24日、10月1日 藤女子大学図書館情報学課程「情報資源組織論」「情報資源組織特論」 札幌
- <見学>
- 7月10日 寒川文書館、神奈川県(中央大学記録管理論)
- 7月27日 京都大学大学文書館、京都
- 8月6日 エルプラザ情報センター、8月9日 札幌市公文書館、札幌(藤女子大学アーカイブズ論)
- 8月19日 国連ジュネーブ事務所見学ツアー、スイス
- 8月20日 ベルリンの壁博物館、ベルリン、ドイツ
- 8月24日 WHO アーカイブ、ジュネーブ、スイス
- 8月27日 ザンクトガレン大聖堂、同修道院図書館(世界遺産)、うなだれるクマの像、中央郵便局付属図書館、ザンクトガレン、スイス

- 8月28日 リヒャルト・ワーグナー博物館、カペレ橋、ルツェルン、スイス
- <参加>
- 5月22日 町内会地引網、辻堂海岸、藤沢
- 6月1日、9月28日 千種台39会打合せ 東京
- 6月11-13日 千種台39会それでもいい北海道(11日定山溪温泉、12日、余市ツカガキ工場、小樽カナル・イニング・クルーズ、13日札幌六花亭テイルム)
- 7月3-4日 千種台39会 下呂温泉、岐阜
- 6月10日
- 6月21日 学習院大学非常勤講師懇談会 東京
- 6月22日、7月19日 東京都公文書館デジタルアーカイブ構想委員会、東京
- 7月13日 寒川文書館運営審議会、神奈川
- 7月24日 辻堂東海岸3丁目町内会救急救命講習会
- 7月24日 故加藤多恵子氏通夜 二宮斎場、神奈川県
- 8月19日 国連人道の日記念スピーチ、フィリポ・グラデ国連難民高等弁務官、UNHCR ホール、ジュネーブ
- 8月22日-9月2日 セルジオ・ビエラ・デメロ資料整理、UNHCR、ジュネーブ、スイス
- 9月7-9日 ICA ソウル大会、COEX, ソウル、韓国
- 9月16日 千種台39会打合せ 札幌
- 10月6日 中華街ランチ w/李先生、横浜
- 10月10日 辻堂地区レクリエーション大会+祝勝会、藤沢

<主催>

5月27-28日 記録管理学会研究大会、国立情報学研究所、東京堂ホール、東京

6月3日、7月1日、9月30日 ドーナツの会 藤女子大学 札幌

7月5日、9月26日 記録管理学会理事会、八雲クラブ 東京

7月31日 湘南BBQ 藤沢市

8月7日 アーカイブの日曜日、藤女子大学、札幌

9月2日 セルジオ・ビエラ・デメロ資料整理成果報告会、UNHCR,ジュネーブ、スイス

<その他>

6月17日、7月15日 エルプラザ打合せ 札幌

7月10日 参議院議員選挙投票日

7月12日 国立公文書館長訪問

7月13日 友子さんとお茶、不動前、東京

7月21日 ヤマダモンゴル、札幌

7月22日 北海道新聞訪問、森林公園散策 札幌

7月25日 「+孫」と辻堂海浜プール 藤沢

7月30日 真夏の夜の万灯 日比谷野外音楽堂

8月20日 孫の子守1時間、ベルリン

8月21日 SvDM ボランティア開会式、フェルニ・ポルテール、フランス

8月23日 ガル湖湖畔でお茶、荒井由希子さん他と

8月26日 ベラ+イヴォ宅およばれ、ジュネーブ

8月28日、9月2日 プビエ宅およばれ シュブリー、フランス

9月1日 モンツェラート宅およばれ、ジュネーブ

■巻末随想 発行遅延の言い訳など

5月の発行以来5カ月、長らくお待たせしました。

言い訳ですがNo.107は8月に発行を予定していました。しかし、なぜか今年は夏が忙しく、結局10月10日付、No.108との合併号での発行となりました。なぜなら、8月は恒例のジュネーブ・ボランティアに加えスイス・ドイツの旅を敢行、9月10月は続けて2度ソウルに行ったためです。

□8月

8月はまずベルリン。お誕生を迎えたばかりの孫の顔を見てばあちゃんは大満足。Mさんとともにベルリンの壁博物館を見学して、お土産に壁のかけらをもらいました。次の週末はスイスのザンクト・ガレンとルツェルン小旅行。ザンクト・ガレン駅前には中央郵便局の荘厳な感じの建物があり、その2階と3階が公共図書館になっていました。世界遺産のザンクト・ガレン修道院図書館を見学し、夕方5時の教会の鐘をききました。ルツェルンではワーグナー博物館を見学し、途中地元在住の日本人らのJapan Festにも立ち寄りました。ボランティア活動の合間を縫って、ジュネーブではWHOアーカイブを見学しました。

□9月

9月はスイスから戻ってすぐソウルに行きました。ICA大会参加のためです。大会は4年に一度ですが、前回2012年はパスしたから8年ぶり。出発前夜遅く、フライトが成田発着であることを発見、大慌てでした。ガイドブックなしで仁川空港からバスでひたすらCOEX.というICA大会会場を目指すスリリングな旅をしました。幸い、大会会場では内外の多くの友人知人に会い、今日のアーカイブ事情に触れることができました。アーカイブ一辺倒の3日間でした。

□10月

10月のソウルは仕事スキのOFF旅でした。9月のICA大会ではが、アタマが休まりました。10月初め、ソウルを訪れました。全くのOFFでアーカイブ抜きの観光旅行でした。インターネットで予約した宿の窓からは景福宮を眼下におさめ、その向こうには青瓦台が正面に見えました。都心なのに、緑豊かな山懐に抱かれる青瓦台の佇まいを見て、隣国を全く知らないことに改めて気付きました。街に出て情報把握がままならず、歯がゆいばかりです。もちろん、タクシーや土産物店、レストランでは日本語がある程度通じて、ずいぶん助けられました。でも、とりわけ旅の最後に宿から地下鉄の駅まで歩いていて、道路に見知った少女像(写真)を認めたときには、ハングルがわからないことが心底情けないと思いました。ハングル、これから頑張ろう。



□旧聞…

・4月1日から、国立公文書館本館の閲覧室は土曜日を開室日にしました。

・国立公文書館「日本におけるアーキビストの職務規準」が4月にアーカイブズ関係機関協議会メンバーに示されました。全史料協、記録管理学会等のアーカイブズ関係機関協議会メンバー団体HPにその全文が掲載されています。

・6月24日、「藤沢市公文書等の管理に関する条例」が公布されました。(ち)

Documenting Japan International Report 国際資料研究所報 ㊦ ←電子バージョンのマーク! ISSN 1342-632X

DJILレポート DJIホームページ <http://www.djichiyoko.com> No. 107+108 20161015

発行所：国際資料研究所 Documenting Japan International Email: djiarchiv@yahoo.co.jp 代表 小川 千代子

〒251-0045 神奈川県藤沢市辻堂東海岸3-8-24 fax+ phone 0466-31-5061 DJIBlog: <http://djiarchiv.exblog.jp>